

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【さいたま市立大久保小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1) 情報を取り出したり活用したりすることができる資質・能力 (2) 自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫することができる資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1) 必要な情報を「教科書・辞書・書籍・インターネット等」から見つけ出すこと及び、情報と情報を関係付けて自分の考えを表現する根拠として活用する授業の実施【全ての教科のなかから実施可能な単元において各学期1回以上】 (2) 相手や目的、意図に応じた自分の考えをもつこと及び、語や文、段落の続き方やつながりをどのように表現するかといった記述の仕方を推敲する時間の確保【全ての教科のなかから実施可能な単元において各学期1回以上】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	

- ①学校全体での取組
②単元テスト・定期テスト
等の分析・活用
③中間評価を経ての取組
④調査結果を活用した授業

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語では、知識及び技能の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」において、新たに課題がみられた。また、重点的に育成する資質・能力の「自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫することができる資質・能力」と関連する「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題において正答率が低い傾向がみられた。 算数では、思考・判断・表現の「データの活用」に課題がみられた。この結果は、重点的に育成する資質・能力の「情報を取り出したり活用したりすることができる資質・能力」とも関連している。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	国語「言葉の特徴や使い方にに関する事項」では、画数が多い漢字に苦手意識があり、日常的に漢字を用いる習慣が定着していないことが考えられる。また、一人一台端末の活用により漢字を書く機会が減少したこと、入力した文字が自動で漢字変換されるため「はんやつくり」といった漢字の形を記憶する機会が減少したことも要因の一つとして考えられる。 算数「データの活用」では、情報と情報を関係付けて自分の考えを表現するための根拠とする手段が定着しておらず、頭のなかで処理した情報を活用している。例として、20cmを求めるために情報では10cmが二つ分しか示されていない場合、 $10 \times 2 = 20$ と求める必要があるが、その立式を省略して20という数を使用している。

③	中間評価
学力向上策の 実施状況	評価(※) B
↓	
学力向上策の 見直し	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所